

南極域環境変遷のさらなる理解に向けて

For better understanding of the Southern Ocean history

*須藤 斎¹、加藤 悠爾¹、石野 沙季¹、服部 圭治¹、高橋 啓吾²、真壁 竜介^{3,4}

*Itsuki Suto¹, Yuji Kato¹, Saki Ishino¹, Keiji Hattori¹, Keigo Takahashi², Ryosuke Makabe^{3,4}

1. 名古屋大学大学院環境学研究科、2. 東京海洋大学海洋科学技術研究科、3. 国立極地研究所生物圏研究グループ、4. 総合研究大学院大学複合科学研究科

1. Department of Earth and Planetary Sciences Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University, 2. Graduate School of Marine Science and Technology, Tokyo University of Marine Science and Technology, 3. Bioscience Group, National Institute of Polar Research, 4. School of Multidisciplinary Sciences, The Graduate University for Advanced Studies

有孔虫や珪藻をはじめとする動植物プランクトンの遺骸は様々な堆積物中から化石として発見される。これらは微化石と呼ばれ、地層が堆積した年代や過去の環境を知る手掛かりとなり、南大洋域においても、海底堆積物から産出する微化石を用いた古海洋学的研究が続けられてきた。しかし、そのアクセスの困難さから、海洋プランクトンの詳細な生態は完全には分かっておらず、古環境復元を行うための情報は不足している。本発表では、珪質微化石を用いた南大洋の古環境復元の研究例を中心に紹介しながら、これらの問題点とその解決への糸口を議論する

キーワード：珪質微化石、古海洋復元、南大洋、生態系

Keywords: siliceous microfossils, paleoceanographic reconstruction, Southern Ocean, ecosystem